C－67　和服における裾切れの研究（第2報）
――長じゅばんの裾の形と八掛布および足袋地との関連性について――

四天王寺女短大　大川原千鶴
山科　圭子
○鳥井　明子

1.　第1報において，和服を袷仕立にする際の裾心，八掛布および長じゅばん地との関連性について報告した。袷長着の裾は重目本絹の八掛布に絹の長じゅばんを組み合わせた場合が一番丈夫であるとの結果を得たので，今回は絹の長じゅばんの裾切れについて検討を加えた。

2.　試料は八掛布として一番組み合わせの良かった重目本絹，足袋地として①キャラコ，②60番ブロード，③40番ブロード，④80番混紡ブロード，⑤キャラコの上にナイロンカバーを重ねたもの，⑥60番ブロードの上にナイロンカバーを重ねたもの6種類をとった。

長じゅばん地としては市販中程度の綸子長じゅばん地を用い，裾の形を①三つ折ぐけ，②ふき（心有），③ふき（心無），④引返し（心有），⑤引返し（心無），⑥引返し（レースをつけたもの），の6種類とし，前回同様，学振型摩擦試験機にとりつけ，八掛地，足袋地を摩擦布として，500gの荷重をかけ，3000回摩擦を行った。摩擦した試料を広げてショッパー型拡張力試験機にかけ強度を測定した。

3.　実験の結果，引返しの裾の内側にレースをつけたものが他にくらべ非常に丈夫であった。又足袋地としてキャラコを用いた場合，長じゅばんの裾の強度は著しく低下した。